

一般質問

市政全般に関する一般質問は2月24日、27日、28日、3月1日の計4日間にわたって行われ、17人の議員が122項目に及ぶ質問をしました。
その主なものは次のとおりです。

『一般質問』

一般質問は、提案された議案に対して説明や所見を求める「議案質疑」とは違い、市長等の執行機関が行う行政全般に対し、事務の執行状況や将来における政策方針などについて疑問をただしたり、報告や説明を求めたりするものです。

また、一般質問は定例会でのみ認められるもので、臨時会では行われません。



問 今後、コミュニティバスはどのコースを通るのか
答 人の集まる拠点へのニーズに対応したい



をしている。通院の多い地域が結ばれるルート設定が今後必要である。公共交通の利用は、人の肥満の体格指数を示すBMIに関連性があるといわれる、これらも医療費の削減に貢献すると思うがいかが

か。

【企画部長】

利用者へのアンケートでは、広域連携バスの運行後に外出回数が増えたという回答が2割強あった。高齢者に利用していたかどうかで、外出の促進が図られ、医療費や介護費用の削減にもつながっていくと考える。



【議員】

本市の地域公共交通網形成計画の策定が、平成29年3月で期限を迎える。前回も質問したが、免許返納者や交通弱者にとってコミュニティバスは生活の足、命をつなぐ足である。今後は試験運行に入ると聞くが、最終的にどのコースを通るのか。

【企画部長】

平成29年度の計画では2つある。1つは現在運行している下館駅と筑波山口を結ぶ広域連携バス。もう一つが、利用者が最も多いと見込まれるルートとして、下館駅、玉戸駅、川島駅周辺の中心市街地を循環し、各鉄道駅への接続や、沿線の学校、病院、商業施設、あるいは、筑西遊湯館など人が集まる拠点への移動ニーズなどに対応する地域内運行バスである。

【議員】

市民アンケートでは、70代の方々の約6割が定期的な通院

他の質問

▼中学校の部活について
▼地域福祉ボランティアについて

問 医療コンシェルジュステーションの設置を
答 総合支援センター設置の中で
対応したい



仁平議員

【議員】

入院手続などをワンストップで提供する医療コンシェルジュステーションが、2015年に日本で初めて山形大学附属病院で導入された。患者の不安や負担の軽減、病院の事務事業の効率化に大きな成果が出ている。具体的には患者のプライバシーに配慮し、個室で面談、専属の看護師が患者の病歴や要望を聞いたり、医師の説明でわからなかった部分を解説する。事務職員が入院の手続、薬剤師が内服薬の確認や説明を行うものである。以前は病棟ごとの看護師がそれらを担当していたが、不安を抱えている患者や家族からは、入院の手続や説明が一元化され入院時の疑問の解消が図られる点が好評とのことだ。病棟の看護師の負担の軽減や入院時に医師や看護師が患者の情報やニーズを共有でき、治療や受け入れ準備を円滑に進められる利点がある。

ぜひ、新中核病院に導入すべきと考えるがいかがか。

【中核病院整備部長】

医療コンシェルジュには、患者が安心して納得できる医療が受けられるよう、診察や検査等の事前予約、事前打ち合わせを実施するなど、一歩進んだ医療サービスを提供する大切な役割がある。新中核病院整備基本計画では、患者様総合支援センターの設置を検討することとしており、各種相談、入院支援、持参する薬剤の確認などを一元化で対応する予定である。



他の質問

▼生活保護世帯について
▼駅伝競走大会について
ほか

問 母子島遊水地等、本市の観光資源をどうPRしていくのか
答 一層の誘客に向け民間の力も借りながらPRに努めていく



小倉議員

【議員】

ダイヤモンド筑波を含め、母子島遊水地を今後観光地としてどう活用していくのか。

【市長】

2月のダイヤモンド筑波を実際に見て、その素晴らしさに大変感動した。今後、一層の誘客に向け、民間の力も借りながら取り組んでいきたい。

【議員】

具体的なPR方法は。

【経済部長】

母子島遊水地は今後さらなる活用が図れる観光資源として考えている。各種パンフレットやウェブ上でのPR、3月発行予定の「るるぶ筑西」においても大きくPRしていきたい。

【議員】

多くの来訪者を受け入れるにはトイレ整備も必要では。

【市長】

現在、遊水地に近い数力所の中から整備を検討している。

【議員】

下館祇園まつりについて、どのようにPRを図っていくか。

【経済部長】

広報紙・ホームページ等でのPRの他、ツイッターやフェイスブック、マスコミ等への情報提供、各種イベントなど、あらゆる機会を捉えたPRに努めていく。

【議員】

外国人観光客を誘致しては。

【経済部長】

重要な課題と認識している。今後検討していきたい。



ダイヤモンド筑波

他の質問

▼電子母子手帳について
▼通称町名の覚書の締結について
▼スピカビル全面開庁について
ほか

問 新中核病院の名称は

答 公募を経て平成29年度に決定したい



【議員】

新病院の名称は決まったのか。

【中核病院整備部長】

現在名称の公募に向け準備を進めている。公募を経て平成29年度に決定したい。

【議員】

開院までにやるべきことについて説明願いたい。

【中核病院整備部長】

平成29年度は、名称の決定、病院を運営する地方独立行政法人の定款の決定や評価委員会の設置を予定。あわせて、医療スタッフの確保、業務統合、医療機器や情報機器の整備、各種届出等の準備をしていく。

【議員】

救急車の受け入れをどう考えるか。

【中核病院整備部長】

最善の医療を最短の時間で受けられることが重要と認識している。中等症患者までは新中核病院で完結できるように、救急隊からの要請を断らない

ポリシーで進めている。

【議員】

診療所や大学病院等との役割分担は。

【中核病院整備部長】

まずは近くのかかりつけ医を受診いただき、検査や入院の必要性がある場合に新中核病院などに紹介される。急性期を脱した患者さんは再度かかりつけ医に逆紹介し、地域での診療となる。また、重症の患者さんは速やかに大規模病院での治療が受けられる体制を考えている。



他の質問

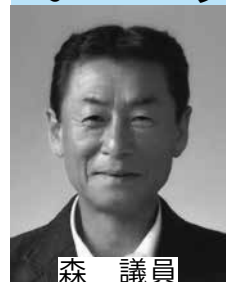
市長の政治姿勢について

農産物ブランド化推進事業について

教育行政について

問 グラウンド・ゴルフ練習場の整備を

答 今後、整備を考えていきたい



【議員】

グラウンド・ゴルフは2019年茨城国体公開競技種目になる予定である。また、基本、個人種目で高齢者が気軽に取り組めることから、競技人口、愛好者が増えている。このようなことからグラウンド・ゴルフ練習場の整備をしてはどうか。

【市長】

グラウンド・ゴルフを初め、スポーツは体力の向上、生活習慣病の防止、地域のコミュニケーションの活性化も図られることから、今後、整備を考えていきたい。

【議員】

関城地区愛好会会員だけでも約150名いる。また、競技者の中心年齢は70歳代、80歳前半である。スポーツ振興だけでなく、健康寿命の延伸、医療費の軽減及び介護予防の観点からも整備が必要と思うがいかがか。

【市長】

日本の医療費は40兆円を超えており、本市でも医療費の削減は課題である。そのような中、グラウンド・ゴルフは単なるスポーツではなく、体力向上により、医療費の削減や生活習慣病予防等になることから、必要なスポーツと考える。以前、一昨年の豪雨で溢水した関城富士宮球場でのグラウンド・ゴルフ大会に参加したが、グラウンドの状況が悪いため、今後関城支所敷地内の用地に芝生の整備を考えているところである。



他の質問

筑西市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

地方創生加速化交付金対象事業について

地方創生推進交付金について

問 小学校エアコン設置計画の前 倒しを

答 まずは設備配線調査が必要、
再度検証したい



大嶋議員

【議員】

中学校のエアコンについては、今年度末で7校全てに設置された。小学校へのエアコン整備は、平成29年度の主要事業として予算化されているが、ここ数年の夏は、地球温暖化による異常気象のため猛暑が続いたことが思い出される。現在、小学校では何校、何教室にエアコンは設置されているのか。

【教育部長】

全ての小学校で、保健室や職員室にのみ設置されている状況である。なお、教育後援会からの支援で2校の特別支援学級に計5台のエアコンが設置されている。

【議員】

小学校空調設備等整備事業では、平成30、31年度に分けて設置予定となっているが、児童の学習意欲、健康への影響を考え、平成29年度に前倒しできないか。

【教育部長】

まずは変圧設備、各教室への配置、配線について、全20校個別に調査する必要がある。しかし、できるだけ前倒しで整備できるように関係部署と協議していきたい。

【議員】

平成29年度が無理なら30年度に全校設置してもらえないか。

【市長】

一日も早く子供たちの教育環境を整えたい気持ちは一緒である。いろいろと順序もあるので再度検証していきたい。



他の質問

▼地方創生 総合戦略4つの基本目標の具体的施策と進捗状況について
▼新中核病院について
▼筑西ふるさと大使、ちくせいの観光大使について

問 人口減少対策として学校給食 の無償化を

答 実施自治体の状況を検証する



鈴木議員

【議員】

本市の人口減少問題は大変深刻である。平成17年の合併時、人口は11万4,000人弱であったが12年が過ぎ、約1万人が減少した。ここ2年間で1,000人近い減少が続いている。少子化対策や社会増（本市への転入）を見込んで企業誘致等の対策は練っていると思うが、ポイントが市民が安心して暮らせることではないか。本市に居を構え、子供をもつと持ちたいと思える環境づくりが重要であり、支援が必要である。今全国的にも学校給食の無償化が進んでおり、全国で62自治体が完全無償である。県内でも大子町が無償化とするためその予算を組んだが、思い切った決断だったと思う。本市でも10万都市を死守するために、思いきった手を打たなければならぬ。人口減を食い止めようと努力していることはわかるが、実際、社会減（本

市からの転出）が進んでいる。人口増につながる学校給食の無償化という重大な決断をしようか。

【市長】

本市の人口減は、非常に厳しい状況になっており、何としても10万人は死守したい。ご指摘の学校給食の無償化については、人口減少を食い止める一つの手段であり、既に実施している自治体等の状況をよく検証し考えていきたい。



他の質問

▼新中核病院について
▼学校耐震問題と小学校の空調設備の設置について
▼中学校の小規模問題と学区制について

問 健康づくり都市宣言をしては

答 新中核病院建設を契機に進めていきたい



三浦議員

【議員】

建設予定の新中核病院は、視点を変えれば、病気になるために活用することも必要である。筑西市の特定健診受診率が県平均より低い実態がある。幸い、新中核病院は、住民参加型の地域医療づくりや予防医学を標榜しており、市として、健康づくり都市宣言をおこない、住民が広く参加できる医療と健康のまちづくりをしてはどうか。

【市長】

新中核病院の建設を契機に、予防医学と調和を図りながら、健康づくり都市宣言を進めていきたい。

【議員】

ピンコロ運動の発祥地で非常に有名な長野県佐久市では、市民一人一人の意識改革を地域ぐるみで進め、レベルの高い目標「世界最高健康都市・佐久」を策定した。また、保健補導員制度を作り、現在708名選ばれ、今までに保

健補導員経験者は2万5千人以上であることから、市の隅々にまで健康づくりの考え方、取り組みが浸透している。本市も壮大なスケールで、また、大きな構えでまちづくりに取り組んではいかかがか。

【市長】

医療監も、健康のまちづくりには地域づくりが欠かせないとの考えであることから、一生懸命取り組んでいきたい。



他の質問

▼新中核病院について
▼健康づくりのまちづくりについて

▼攻めの学校給食について
▼就学援助について

問 今後の公共交通対策は

答 デマンドタクシーと地域内運行バス両面から検討したい



尾木議員

【議員】

市は毎年、デマンドタクシー運行事業に補助を行っている。どのような事業費が補助金の対象となるのか、特定されていないので、より明確な内容とするよう監査から指摘があるが、どのように改善されたのか。

【企画部長】

補助金対象経費の特定については、補助対象事業者である協同組合日専連しもだてと、現在、見直しに向けた協議を進めている。

【議員】

予約が取りづらい、電話がつながらない、平日のみの運行で、また、夜も運行していない等、使い勝手が悪いデマンドタクシーをこのまま続けられるのか疑問である。交通弱者や免許証を返納してしまう方からは、タクシー券の補助の方が良いという声を聞くが、いかがか。

【市長】

タクシー券の補助とした場合利用者から見ると、1回あたり300円で利用できるデマンドタクシーと比較すると移動距離にもよるが、自己負担が大きくなることが予想され、利用者の増加に比例して市の財政負担も増大することが懸念される。また、デマンドタクシーは利用者が増加すれば市の財政負担が減少する仕組みになっている。今後は地域内運行バスと、デマンドタクシーの利点を踏まえ、両面で検討していきたい。



他の質問

▼新中核病院について
▼きずなメールに導入について

▼防災士取得について
ほか

問 将来コストの試算と現実とのギャップをどう埋めるのか
答 公共施設は維持管理コストをインフラは更新費用を削減



小島議員

【議員】

筑西市公共施設白書における公共施設、インフラ資産に係る将来コストのシミュレーションによると、今後40年間で約2100億円、1年当たり52億円のコストがかかると算出されている。これまでの平均は1年あたり28億円で、およそ倍増となり、現実的に負担は不可能と考える。シミュレーションと現実とのギャップをどのように埋めるのか。

【市長】

この問題には危機感を持って取り組まなければならないと認識している。公共施設に関しては、今後20年間の中間目標として総床面積の20%削減という目標を立て、施設類型ごとの実施計画の策定に着手したところである。しかしながら、床面積を削減すれば解決する問題ではなく、今後の人口減少や利用者の利便性に配慮しながら、施設の複合化や機能集約など、あらゆる手

段により維持管理コストの削減に努めてまいりたい。一方、道路や下水道などのインフラは、市民生活の基盤であり、これらの廃止や縮小は難しいところがある。定期点検の実施や、事後保全から予防保全への転換により、できる限りの長寿命化を図り、更新費用の削減に努めてまいりたい。



他の質問

- ▼新中核病院整備組織について
- ▼上水道、下水道について
- ▼建物の区分所有等に関する法律に基づくスピカビル管理組合の運営について
- ▼給付型奨学金の創設について

問 高齢福祉サービスにおける役割からの取り組みは
答 高齢者見守り事業や介護予防などサービスを充実



石島議員

【議員】

我が国の総人口は平成20年をピークに減少局面に入り、総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は増加を続けている。平成62年には世界で初めて約4割に達すると推計されている。人口減少や高齢化の進展、地域を支える担い手減少による地域経済の停滞、高齢者の増加に伴う社会保障制度の持続困難などが危惧される。高齢者に対する福祉サービスについて、現状とこれからの取り組みについて伺いたい。

【市長】

人生の先輩が一所懸命に働いてくださったからこそ、今の我々がある。市では高齢の方々がいつまでも、安心して住みなれた地域に住み続けられるよう、緊急通報機器整備事業や愛の定期便事業などの見守り事業、高齢者クラブ活動促進事業やシルバー人材センター補助事業などの生きた活動支援事業を実施してい

る。また、生き生きとした生活が送れるよう、介護予防はつらつ教室などの介護予防の啓発、日常生活での支援が必要となった場合でも在宅で生活できるよう、在宅福祉サービスにも取り組んでいる。今後も高齢者が安心して、住み慣れた地域に住み続けられるよう、見守り事業、生きがい活動支援、介護予防等のサービスを充実してまいりたい。



他の質問

- ▼効率的な行財政運営について
- ▼太陽光発電施設について
- ▼教育行政について

問 人が集まる道の駅には何が大事で何を必要とするか
答 景観・イベント・農産物の活用、独立採算の運営を目指す



藤川議員

問 市内文化財の整備をどのように考えているのか
答 貴重な文化財を一体的に整備していきたい



稲川議員

【議員】

道の駅建設については期待される方がいる一方、不安を抱えている方もいる。全国には既に多くの道の駅があり、後出しの本市は負けるわけにはいかない。採算のとれる、人が集まる道の駅にするには何が大事で何が必要か。

【市長】

現時点で、筑波山の景観が一望でき、四季を通して各種イベント開催、地元農産物の販売、その農産物を使ったレストラン等を備えた道の駅を考えている。そして市民の期待に応えられ、周りから人の集まってくる道の駅にしたい。また、経営については第3セクターにより独立採算の管理運営ができる道の駅を目指したい。

【議員】

道の駅には通過型、滞在型、目的地型などのパターンがあるが本市が目指す道の駅は。

【土木部長】

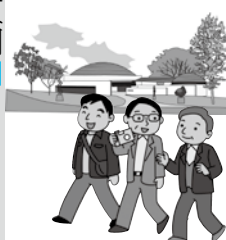
交流人口の増加や地域課題の解決の場として貢献できるよう、道路利用者はもとより、近隣住民のほか、遠方からも来てもらえるような目的地型の道の駅としたい。

【議員】

計画段階から市民がかかわることが大事と考えるが。

【土木部長】

観光資源調査・発掘協議会や農産物ブランド化推進協議会でも道の駅を絡めた活発な意見が出ている。道の駅の運営・企画を検討するワーキングチームには地域の方の参加も予定している。



他の質問

▼新中核病院について
▼地元で頑張る大学生の応援事業について ほか

【議員】

小栗城跡、小栗内外大神宮、新治廃寺跡、新治郡衙跡等の市内文化財の整備を、今後どのように考えているのか。

【市長】

本市には数多くの貴重な文化財がある。多くの方に知ってもらい、見てもらうために、一体的に整備をしていきたい。

【議員】

イベントだけでなく文化財を利用して、一年を通して集客が見込める観光地を考えられないか。

【経済部長】

今年度より観光資源の調査発掘に本格的に取り組んでいる。その中で宇都宮市方面をターゲットにモニターツアーを実施した。小栗判官まつりや黒子にある千妙寺等を巡ったところ、参加者からは「歴史的ロマンを感じることができた」等、貴重な意見を頂戴した。今後、ストーリー性のあつたツアーの構築とともに

【議員】

に効果的なPRに努め、観光資源として文化財の積極的な活用を図っていきたい。

【議員】

以前も質問したが、新治汲古館に展示してあつた歴史的な資料は、東日本大震災で被災してしまい、現在桜川市に寄託されている。貴重な歴史的資料が出土した地、本市に施設を整備し、展示できないか。

【教育部長】

現在、歴史的資料を一元的に保存、管理、活用できる拠点施設はないが、今後、既存施設等の活用も含め施設の整備に努めていきたい。新治汲古館に収蔵されていた資料も本市で施設が整ったら所有者と協議をし、展示や保存をしていきたい。



他の質問

▼郊外活動参加費補助について ほか

問 小規模学校のトイレ改修を進めて欲しい

答 積極的に進めたい



田中議員

【議員】市内小学校の洋式トイレの整備率は。

【教育部長】本市の洋式トイレ整備率は61・5%である。県平均は49・2%、国平均は43・3%である。

【議員】小学校のトイレ洋式化の改修計画を伺いたい。

【教育部長】学校施設の大規模改造に合わせて、単に和便器から洋便器に変更するだけでなく、排水管やトイレ内の改装も含めて改修を行っていく。また、予算的な面もあるが、未整備の学校についても前向きに考えていきたい。

【議員】

本市の洋式トイレ整備率は県・国の整備率を上回っているとはいえ、明野地区、小規模小学校の整備が遅れていると考える。昔の和式トイレは本当に小さい。現在の生徒の

平均身長は伸び、体も大きい。ため、和式が多い小規模小学校の生徒は同じ本市の生徒であるにもかかわらず、トイレを我慢してしまう傾向がある。ついては、今年度予算に小学校の空調設備を設計する予算が2年計画で計上されていることから、トイレ洋式化改修と空調設備を一括して整備はできないか。

【教育部長】年次計画とは、別枠で早急に進める。

【市長】家庭環境や生活様式を考えると、現在は洋式が主流である。財政の問題もあるが積極的に進めていきたい。



他の質問
▼農地とまちづくりについて
ほか

問 子供たちの夢を育むスポーツ施設整備を重点事業に

答 前向きに考えていきたい



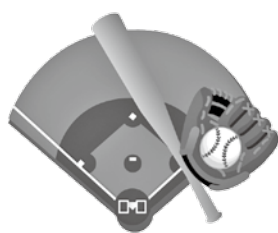
榎戸議員

【議員】第2次筑西市総合計画基本構想に「生涯スポーツの推進」という項目があるが、「スポーツ振興に向けスポーツ施設の充実に努める」という漠然とした記載で、下館運動公園に公式記録の取れる陸上競技場や公式球場といった明記がない。本市はスポーツ分野が他市に比べて非常に遅れている。今後の政策の中に、子供たちの夢を育む施設として具体化した表現はできないものか。

【市長】平成27年度に下館運動公園予定地内の旧市民プールを解体撤去した。今後は平成31年の国体に向け、公共残土の整理を行い駐車場としたい。下館運動公園の当初計画図面には、立派な運動場や野球場があった。総合的に、今後真剣に考えていかなくてはと思う。

他の質問

▼設計業務の入札について
▼筑西市の情操教育について
▼乾杯条例について



問 市が進める人口減少対策は何か
答 企業誘致・安心して暮らせるまちづくり



赤城議員

【議員】

平成52年の市の将来人口が77,546人で危機を感じる。市民意識調査でも人口減少対策としての企業誘致や産業活性化等による安定した雇用確保を望む声が多い。市の発展は、ここで暮らす人々の安心安全、安定した雇用と活気等が融合して生まれるものだ。市大綱に各種施策はあるが、人口減少を食い止め増加に転じる起爆となる工業団地造成等はどうか。

【市長】

人口減少対策は種々あるが、財政面で市民に負担をかけない方法が望ましい。工業団地造成は雇用の場の確保・税収の増・市の活性化等に効果は大きく、今も積極的に取り組んでいる。次に、市民が安心して暮らせるまちづくりとして、子育て環境・教育環境等の充実。魅力と活気に満ちたまちづくりとして、歴史文化の活用・新たな資源の発掘等

も考える。また、行財政改革と国庫補助金等の活用の徹底なども基本として進めたい。

【議員】

本市は北関東自動車道・圏央道など物流の大動脈にも近く、今が企業誘致等のチャンスと考える。10万市民のためにも、他市に先駆け一刻も早く手を挙げるべきではないか。

【市長】

今整備中のつくば明野北部工業団地は、市の負担なく県等の助力により実現できた。圏央道の開通・国道294号の4車線化・つくば市より地価が安い等の好条件がある。今後、県等の協力を得ながら、新たな工業団地造成と企業誘致に取り組んでまいりたい。



問 交流人口をふやすためのPR用ステッカーをつくっては、観光資源の発掘等の取り組みのひとつとして研究したい
答



外山議員

【議員】

本市の交流人口をふやすため、12年前から公用車へのPR用ステッカーの掲示を訴えてきた。自分でもトマト・キュウリ・スイカ・イチゴ・梨などの特産物やダイヤモンド筑波などのステッカーを車に貼って市をPRしている。しかし、ダイヤモンド筑波のステッカーなどは、市外の方は当然だが市内の方からも、どこで見られるのか聞かれることがある。市内ですらPR不足なのである。今は自治体間の競争も激しく、いかに本市をPRし、交流人口を増やすかが課題である。本市には農産物のほかサケの遡上する五行川、文化勲章受章者である板谷波山先生、森田茂先生、四大祭り等ステッカーの題材となるものがいろいろあり、マグネットのステッカーにすれば使い分けもできる。少ない費用で最大の効果を発揮でき、本市を市内外にPRできるス

【経済部長】

ステッカーをつくってはどうか。以前PR用ステッカーの質問を受け、経済部の公用車については農産物をイメージしたデザインによるステッカーを貼付しPRを行い、また、ちっくんのステッカーを貼ったこともあるが、現在は老朽化により使用していない状況である。今後、平成28年度から始まった観光資源調査発掘事業、農産物ブランド化推進事業の中で、どういうステッカーがいいか研究していきたいと考えている。公用車への貼りつけ等については関係部局と協議しながら進めたい。



他の質問

▼観光事業について
▼文化財等及び史跡等の活用について
ほか

研修報告

【広報委員会】

研修日 1月11日

視察地 取手市

テーマ

・議会の広報活動について



取手市役所にて

取手市の議会だよりは、議決結果、討論内容などの議会にとって必要なものを中心に掲載しており、議会と行政との違いを明確に表していると感じた。

市議会のホームページでは、市民が知りたいことは何なの



取手市議場にて

かを考えて作成している。そのため、政務活動費においては、単に政務活動費の支出内訳を公開しているだけでなく、基本的な事柄から理解できるように政務活動費の説明、政務活動費を充てることができ、経費の説明も掲載している。また、ホームページ上や、メールマガジンで議会からのお知らせを逐一発信している。このようにホームページを活用することで、誰でも簡単に議会の情報を得ることができる。

大地震に備えて、筑西広域シェイクアウト訓練プラス1に参加しました！

平成29年3月13日、予算特別委員会中に一斉行動訓練（筑西広域シェイクアウト訓練プラス1）が行われました。

今回の訓練は、筑西広域管内で緊急地震速報が発表され、地震の揺れを感じたときに、圏域住民、事業者、団体等が命を守る行動、そのための知識、意識、そして行動力の向上を図ることを目的として行われたものです。訓練は、茨城県南部を震源とする直下型地震が発生し、筑西広域管内各市で震度6強を観測したという想定でした。

6年前に東日本大震災が発生したときも、定例市議会の最中であつたことから、議員及び職員も真剣に訓練に参加しました。



机の下に身を寄せる議員

○「シェイクアウト訓練」とは
この訓練は、アメリカで考案された地震対策の防災訓練です。参加者が同じ時間に、家庭や職場などその時にいる場所で、一斉に身を守る行動をとります。地震発生時に、いつでもどこにいても身の安全を確保するよう自ら判断して動くことを目的としています。（日本シェイクアウト提唱会議より）
今回の訓練ではプラス1訓練として、緊急速報メールの配信訓練も行いました。

新議場オープン



平成29年2月22日に第1回定例会が開会し、筑西市議会新議場が開場しました。

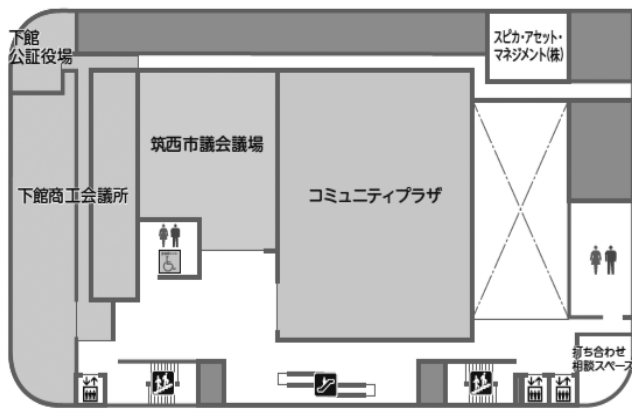
開会冒頭、箱守議長が開場を宣言し開場式を行いました。

新議場は、新庁舎6階にあり、傍聴席は48席、記者席9席、車

いす用のスペースも整備されました。

旧庁舎の議場よりも傍聴席が近くなり、白熱した議会をより間近で見ることができるようになりました。





新庁舎 6 階



議場



議場入口



傍聴席



1 階 憩の広場

《議会を傍聴してみませんか》

◆本会議（6階 議場）

開催当日に、6階の議場前にて受付をしています。
傍聴席は48席です。（先着順）

◆委員会（4階 全員協議会室）

開催当日に、4階の議会事務局にて受付をしています。
傍聴席は18席です。（先着順）

傍聴については、

- ① 受付時間は午前8時30分～
- ② 受付で住所、氏名、年齢を記入してください。
- ③ 傍聴の予約はできません。
- ④ 児童・乳幼児は入ることができません。

⑤ 本会議はケーブルテレビでの生放送、インターネットでの録画放送がされており、傍聴者がこれに映る場合があります。

今回の第1回定例会では、延べ205名の方が本会議を傍聴し、延べ7名の方が委員会を傍聴しました。

なお、本会議は、本庁舎1階憩の広場と6階 議場前ホールでも生中継をご覧いただけます。